

会議の名称	令和7年度第1回さいたま市動物愛護推進協議会
会議の開催日時	令和7年8月29日（金）14時～16時
会議の開催場所	浦和コミュニティセンター 第9集会室
出席者名及び欠席者名 ※敬称略	【出席委員5名】（五十音順） 赤澤 暁昌／加藤 彰朗／西村 亮平／望月 素子／吉田 聡宗 【さいたま市動物愛護ふれあいセンター3名】 所長 三角 直史／主査 永田 瑞穂／獣医師 遠田 彩加 【事務局（生活衛生課）2名】 課長補佐 岩永 貴浩 主任 山崎 舞
議題及び公開又は非公開の別	議事1 動物愛護フェスティバルについて 議事2 SFTS等人と動物の共通感染症について 議事3 その他
傍聴者の数	0名
会議の内容	下記のとおり。

記

西村会長	議事1につきまして、動物愛護ふれあいセンターからご説明をお願いします。
動物愛護ふれあいセンター	動物愛護フェスティバルについて説明をさせていただきます。 今年の動物愛護フェスティバルは動物愛護週間期間中の9/21に実施します。 公益社団法人埼玉県獣医師会さいたま支部、シモゾノ学園、埼玉県適正飼養管理士会の協力のもとに開催します。 イベント内容につきましては、獣医師会では動物の健康相談や獣医師になって記念撮影をする企画、シモゾノ学園では学生さんによるデモンストレーションや犬とのふれあい、犬の魅力を再発見という企画を実施する予定です。 埼玉県適正飼養管理士会からはどうぶつおりがみつりゲームや動物を知ろうという企画のほか、ペット防災のお話をさせていただきます。 そのほかのイベントとしては乗馬体験やふわふわのすべり台、犬猫のセミナーの実施などがあります。 犬のしつけ方教室は講師として樅山先生が、猫の飼い方教室はセンター職員が行います。 予約が必要なものにつきましては、8月30日から9月8日までに申し込みを受け付けています。

	新聞社から当イベントを記事に掲載していただけるという話をいただいております。 イベントの参加予定人数は約 1,000 人のお子様とその保護者の方のご来場を見込んでいます。
西村会長	ありがとうございました。それでは、動物愛護フェスティバルについてご質問、ご意見はありますでしょうか。
望月委員	昨年、動物愛護フェスティバルのお手伝いをさせていただきました。乗馬コーナーで、待っているお客様とお話しをしていたのですが、新聞を見てイベントにお越しいただいた方が何人もいらっしゃいました。逆にそれ以外に知る方法があるのですか、というご質問をいただいて、ホームページに載っていますというお答えをしたのですが、ほかに周知しているものはあるのでしょうか。
動物愛護ふれあいセンター	当イベントについては、さいたま市内で全戸配布している広報紙、「市報さいたま」に掲載してお知らせをしています。そのほかホームページ、新聞の掲載といった広報を行っています。
加藤委員	動物愛護ふれあいセンターとしては今後、規模や来場者の人数を増やしたいという意向はあるのでしょうか。拡大するのであれば、例えば私たち動物病院が SNS を使って周知するというお手伝いもできると思いますが。

動物愛護ふれあいセンター	さいたま市としては広く周知していきたいという考えです。 ただ、規模については動物愛護ふれあいセンター内で行っているため、人数については収容できる範囲内になります。また、交通の便がよくないため、車で来られる方が多いのですが、センター駐車場が26台しかありません。近隣にも協力をお願いをしているのですが、キャパシティに限度があります。 駅からバスは出ていますが、最寄りの駅からバスに乗り継いで来なければいけないので、公共交通機関でご来場いただくのは難しいところがあります。
赤澤委員	保育園や小学校にチラシやポスターを配布するのも効果的だと聞いたことがあるのですが、実施しているのでしょうか。
動物愛護ふれあいセンター	イベントの企画に小学生の絵画展示がありまして、協力してくださっている小学校にチラシを配布しています。
吉田委員	天候によりイベント内容変更中止とあるのですが、雨が降ると遊具なども使えなくなってしまうので屋内のみになるのでしょうか。
動物愛護ふれあいセンター	遊具は雨が降ると使用ができません。あとは乗馬ですが、小雨であればかっぱを着せて出来るかもしれないですが、雨が強くなると中止せざるをえないです。
望月委員	猫の飼い方教室が、これから猫を飼いたい人向けとあるように、犬のほうもこれから飼いたい人向けのセミナーがあるといいかもしれません。 保護犬をお迎えしたくても、途中からしつけができるか、すごく心配してやめる方もいらっしゃいます。 私は飼っている4頭全部が保護犬で3～4才からお迎えをしたのですが、ハウスのトレーニングもおしこのトレーニングもできますし、私の仕事柄というのはありますが、実際できないことではないので、そういうPRも含めて、これから犬を飼う人向けにもあるといいと思います。
吉田委員	犬のしつけ方教室は人間だけで参加するのですか。それとも犬と一緒に参加するのですか。

動物愛護ふれあいセンター	今回のイベントのセミナーでは人間だけです。 今回のイベント以外では、動物愛護ふれあいセンターで犬のしつけ方教室を開催しておりまして、そちらは犬と同伴です。1回6組ほどで募集をしております、年度に6回程度開催しています。さきほど望月委員から意見があった、これから飼いたい人向けの講座も今後、検討しているところです。
吉田委員	しつけ方教室と飼い方教室は言葉の意味の違いはあるのでしょうか。
動物愛護ふれあいセンター	猫は基本的にしつけをするという考え方はないので、しつけではなく最低限やってほしいことを教えるということになります。
加藤委員	しつけというのは、犬に対してだけでなく、人に対してという意味もありますから、犬のしつけ方教室という表現は猫の飼い方教室と揃えてもいいと思います。継続的に市で開催するようなイベントであれば動物飼育の環境設定が1番大事になってくるというところで、犬に対してのアプローチではなくて、人がどう動くかというところがイメージできるフレーズが入ってくると面白いと思います。
加藤委員	あとは、犬や猫を飼いたいという人がどれだけこの情報に自分からアプローチしてくれるかどうかですね。飼っている方は情報に自分からアプローチをしていただけたと思いますが、初めて飼う方がどれだけアプローチして情報をつかめるかというところが、今後、どう情報を拡散して広げていくかという1つの課題になってくると思います。
赤澤委員	イベントについて、動物愛護ふれあいセンターの周りでお食事ができる施設はあるのでしょうか。人数的には制限があると思うのですが、滞留時間としてはどうなのかと。これだけ盛沢山のイベントなので午前、午後と楽しく過ごしてもらえるように、そういった施設があるのかお伺いしたいです。
動物愛護ふれあいセンター	センターは荒川や鴨川沿いにあるため、周りには飲食店がなく、区役所や大通りまで行けば飲食店はあるのですが、小規模で千人ほどの人数が飲食できる施設ではありません。 キッチンカーについてはイベントの規模的に難しいと思います。滞留時間としては2～3時間くらいだと思います。
西村会長	ご意見、ご質問は以上でよろしいでしょうか。それでは議事を進行します。議事2のSFTS等人と動物の共通感染症について事務局からご説明をお願いします。

事務局	S F T Sについては、北海道まで出てしまったということで、関東含め全国的に広がるだろうといわれています。国のデータを見たところ、全国的な患者数は毎年 20 人、30 人ずつというように増えています。この S F T S について簡単に述べさせていただくと、新聞等で報道されているように、致死率が高いのが特徴です。10% から 30%、一般的には 25% 前後とされていますが、これは年齢を区切らなかった場合の話で、高齢者に限ると 5 割を超えるのではないかと断言している専門家もいらっしゃいます。S F T S は感染症としてはかなり新しいほうで、疾病としては 2009 年頃に中国で発見され、ウィルスが特定されたのが 2011 年ですから、特定から 15 年くらいしか経っていないウィルスです。ウィルスの種類としてはリフトバレー熱という、致死率の高い感染症があるのですが、このウィルスと近種の R N A ウィルスで、有効な治療薬やワクチンがありません。 この S F T S ウィルスを持ち運びしているのがマダニで、日本ではマダニのうち 3 種類くらいが中心だといわれていますが、このマダニを運んでいるのが動物、私たちの身近でいえば犬猫です。資料の、動物から人への感染例を見ますと、動物病院の獣医師が結構、感染の被害にあっています。 一般的なご家庭ですと、飼い主さんの感染というものもあるのですが、大半は農作業や山に入ってから感染するケースです。資料の後ろには直近の S F T S に関するニュースの見出しを、動物に関連するものを中心にいくつか集めました。 S F T S は感染症法で届出が義務付けられている第 4 類感染症に位置づけられていますが、過去 3 年間の埼玉県の S F T S 感染症発生動向を確認しますと、埼玉県では患者は報告されていません。したがって、さいたま市もゼロ件です。 簡単になりますが、説明は以上になります。ご質問があれば承ります。
西村会長	S F T S の顕在化に伴い、野良猫を含む野外動物とのふれあいについて、愛護と福祉の観点から、皆様それぞれの立場からのご意見を伺えればと思います。いかがでしょうか。

加藤委員

この議題を提案したのが私なので、先にお話しをさせていただければと思います。今年に入って病院でノミダニの予防をしたいとおっしゃる患者様が非常に増えまして、当院でしたら普段であれば3割くらいのところ、今年は約半数くらいの方がノミダニの予防をされているので、意識がかなり高まっています。

あとは感染源としてダニの対策をするという部分。院内に持ち込まない、持ち出さないことが感染の対応策として大事です。犬は散歩で外に行くから、マダニ付着の防止が難しいので予防をしましょうと言いきやすいのですが、猫に関しては基本的に室内飼いになってしまうので、皆さんへの意識啓蒙が届きづらいというところが少しあります。猫の感染や猫からの感染というのは非常に多いので、外に出さなくてもダニ予防をやったほうがいいかなという意識が高まっている状況ですが、予防というところにしかアプローチができないです。

実際にSFTSの疑いがある場合に、病院の機能を考えると、院内汚染が発生した場合、病院運営がストップしてしまう恐れがあるので、院内での診察というのは難しいのが現状です。診察室がいくつもあって、そこさえ隔離してしまえば他の診察室で回せるという病院であれば機能維持はできると思いますが、病院の規模によっては通常の診察がストップする可能性があります。

病院として、それ以外に怖いと感じているのが、SFTSについて、ダニに噛まれる以外に体液からも感染するという事例報告があります。手術室に入った猫に使用した器具を、次に手術をした犬が使った際に体液から感染したのではないかと疑われる事例があるそうです。そうしますと、町病院としては運用がかなりシビアになりますし、ウイルスを病院内に入り込ませたくない、患者様のお家にも入れないようにもしたいというところを、飼い主さんにうまく伝えて、予防について啓蒙していきたいと考えています。

ただ、行政や、動物愛護のお仕事をされている方たちと意識のずれがあると、あっちではこう言って、こっちではこう言ってということになり、市民がどの情報を信用すればいいか分からなくなってしまうので、皆さんが今思うところ、ご意見をこの場でお伺いできると、今後そこにすり合わせをしながら動けるということで、議題として提案しました。

赤澤委員	お話を聞いて大変勉強になりました。 野生動物との兼ね合いでもあるのですが、正しく怖がってほしいというか、むやみやたらに拒絶反応をするようなことがないように、しっかりと正しい知識を伝えられればと思っております。 鳥インフルエンザなどがあると、それに伴う過激な反応がいつも出てくるので、SFTSに関しても出てこないわけではないと思うのですが、正しい知識をつけてもらって予防できる方向に進めていけたらと思います。我々は業界の団体ですが、ペットショップやブリーダーに正しい知識をつけてもらい、飼い主の皆様に啓発できる活動を少しずつしております。今後更にそうした取り組みを進めていかなければならないと実感しました。
望月委員	私は昔から犬を飼っていて、ダニの予防については獣医師の先生と相談して、つけ薬や飲み薬で予防をしているので、今のところはダニに噛まれたことはありません。 ところが、ほかの犬の飼い主さんやお友達のお話を聞くと、農薬のような強い薬を飲ませたくない、つけたくないという意見が聞かれます。あとは、市販で売っているような、首輪などにつけて電磁波で予防するようなダニ除けでいいと思っている飼い主さんも多いようです。そのようなダニ除けは効果が分からないものもあると思いますので、飼い主さんに啓発するときにはどのような伝え方をするのがいいのか、ここで質問をさせてください。
加藤委員	スポットタイプの一世代前のつけるお薬は、農薬関連で使っている成分と同じではあるので、怖いという印象を受けられるとは思いますが、安全性に関してはメーカーが安全試験を行っているのでお薬の提供に問題ないと思っていただいていいです。最近は新しい成分のお薬に少しずつ切り替えられていますが、こちらは動物用として開発されたもので農薬に使われる成分は使われていません。 効きとしては、新しいお薬のほうがいいかもしれません。昔から使っているお薬だと、ダニに耐性ができてしまい、お薬が効きづらくなることがあります。農薬として使われている成分が怖いとおっしゃる方にアプローチするのであれば、新しく出てきたお薬がワンちゃんネコちゃん専用に開発されているものですよというように提案するのは一ついい方法かと思います。 駆除剤ではないノミダニ除けの忌避剤より、お薬のほうが効果としては効くのではないかと思います。内服薬タイプやつけるタイプの薬剤は、血中に広がって、ノミダニが吸い付けば落ちるというのが実証されています。ただし体にノミダニがくっついてくる

	ところに対しては、内服薬では効果が出ません。忌避剤でどこまで避けられるかは分かりませんが、もう一段階ブロックするという意味では併用は悪くないと思います。虫よけとして使うのと、虫を退治するために使うのと、使い分けができるといいかと思います。 忌避剤は避けられることはあるとは思いますが、検査や効果測定をしているお薬と比べると、やはり極力データが揃っているお薬を使っていたいたほうが安心ですね。
望月委員	ありがとうございます。 忌避剤やサプリメントだけで効くと思っている飼い主さんも多いので、皆さんに分かっていただきたいと思います。こういった情報は病院で皆さんに知ってもらえるものなののでしょうか。
加藤委員	基本としては病院ですね。飼い主さんからもご質問をいただいています。
望月委員	正しい知識を知ってもらうために、市の広報紙などで書けないのでしょうか。
事務局	正しい知識としては、FAQも含めまして、厚生労働省が一般市民を対象とした初歩的なことから複雑なことまでSFTSについてホームページで公開していてマダニの予防の方法についても書いてあります、市町村は厚生労働省の見解を踏襲しますのでこのホームページをご案内しています。厚生労働省のホームページは非常によくまとめているのですが、一般に、市役所や厚生労働省のホームページは中々アクセスしてくれる方が少ないのが現状です。どちらかといえば、SFTSがメディアに取り上げられた際に、取材した専門家の声として医師や獣医師の方がコメントした意見のほうがSNSなどでの広がり方が大きいように感じます。
望月委員	犬や猫だけでなく、シカなどの野生動物が出るということに対して心配をされる方もいらっしゃるですね。

西村会長	ノミダニ除けとして市販されているものについては、動物への健康影響が懸念されるものがあるのが現状だと思います。 また、今回の会議では、ペットからの感染の話を中心にしていますが、SFTSに関しては、人に感染するケースの殆どは屋外での活動中にマダニに咬まれたことによるもので、ペットを介して感染する例は少数です。 正しい情報を伝えるために、SFTSについてはまとめられた情報が発信されることが望ましいと考えます。中途半端に散発的な情報が発信されると、人々は混乱するばかりで不安は収まりません。
事務局	ありがとうございます。持ち帰って検討いたします。
西村会長	続きまして議事3その他として、委員の皆様から本日の協議会で議論したい議題やご質問があればお伺いします。
吉田委員	本日、資料でいただいた厚生労働省の動物由来感染症ハンドブックですが、こちらは動物愛護フェスティバルでも配られるのですか。
事務局	厚生労働省から自治体に配布された部数が少ないため、来場者に配れるほどの部数がありません。
西村会長	厚生労働省のホームページにも載っている内容なので、ホームページにアクセスできるQRコードを印字したチラシを配る方法もあります。
望月委員	今は、冊子などはもらわずにQRコードを使う方が増えているかもしれません。
吉田委員	フェスティバル自体はお子さん向けのイメージなので、感染症に対する広報についてはしつけ方教室で啓発するというイメージでしょうか。
望月委員	もし、ある程度パンフレットの数があるのでしたら、犬のしつけ方教室に参加される方の人数でしたら足りるかもしれないですね。
動物愛護ふれあいセンター	配布された部数を確認しながら、今後しつけ方教室などで配布したいと思います。
西村会長	この件についてはよろしいですか。 では私から一つ質問してよろしいでしょうか。今、猫の譲渡希望者が減っていると色々な所で聞くことがあるのですが、さいたま市ではいかがでしょうか。

動物愛護ふれあいセンター	猫の譲渡につきまして、今年については、一時期は譲渡希望の待ちがあったのですが、今は待ってらっしゃる方があまりいない状況です。
西村会長	全国的に猫の譲渡希望者が減って、動物愛護センターで保管する頭数が増えているのではないかという話を聞きまして、どうして希望者が減ってしまったのか原因は考えられますか。
動物愛護ふれあいセンター	動物愛護団体など譲渡事業を行っている団体から譲り受けている方が増えて、行政の動物愛護センターから引き取る方が減っているのかもしれません。
西村会長	ありがとうございました。 そのほかのご意見よろしいでしょうか。 それでは本日の議事は全て終了します。皆様、円滑な議事進行にご協力いただきありがとうございました。